

これで安心！当日のご案内ポイント

大型リラックスクルーザーボートde行く ピピ島&バンブー島ツアー

☆これで安心！ツアー参加説明書：写真付きで解説☆

今日はこんな感じで参加致しました。ご参考下さい。

バスは１３人乗りのトヨタのワゴン車



☆集合場所にお迎え！（ホテルロビー）

集合場所はご宿泊先ホテルロビー前方　集合時間は厳守！
いないと置いて行くので注意を！

ホテルロビーが広い場合は、①車の乗降場所、②ベルボーイ近辺、③受付スタッフ前が待ち合わせのポイント！
色々なツアーのお迎えが来るので、スマホで英文電子バウチャーチケットを提示して、名前を確認後ご乗車下さい。
※ピーク期間などで集合場所が混雑している場合は、メモ紙に少し大きく「Phi Phi Mr. Taro 」など、手書きで書いて用意するのもわかりやすい合図です。お迎えの運転手に見せて！積極的が◎

※シャトルバス（巡回ミニバス）は混載車のため、他のホテルを巡回しながらご参加者をピックアップするため遅れることがあります。20 分過ぎても来ない場合はご連絡下さい。





☆港に到着！

▪パトンビーチから片道 1 時間弱で到着！港までは島民の生活を垣間見えて楽しい道中でした。
▪港に到着時にスタッフが誘導、表デスク受付にてお客様確認（お客様名とホテル名で確認）
▪ツアー保険加入のため、名前と年齢、誕生日などを記入します。





☆リストバンドを受け取る

▪リストバンドを受け取り、色でグループ分けを致します。今日は全部で 2 隻のボートに分けてのツアーとなります。
▪リストバンドの色でグループになり行動します。





トイレあり◎

☆参加者が集まるまでの休憩

▪**国立公園入島料：大人 400 バーツ**はこちらでお支払いです。タイバーツの現金のみとなりますのでご用意下さい。（子供は 200 バーツ）
▪酔い止めなど、受付カウンターに置いてあります。（無料）





☆軽食やスナック

▪待ち時間はコーヒー＆紅茶、サンドイッチ、お粥などの軽食を無料でお取り頂けます。

【ツアーのポイント①】

▪昼食が遅くなることもありますので、少しでもお腹に入れたほうが良いです。

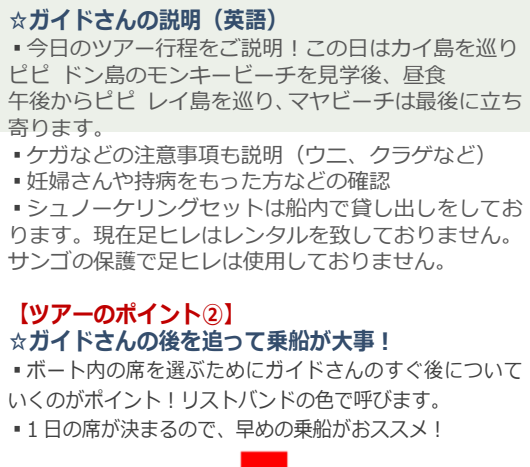


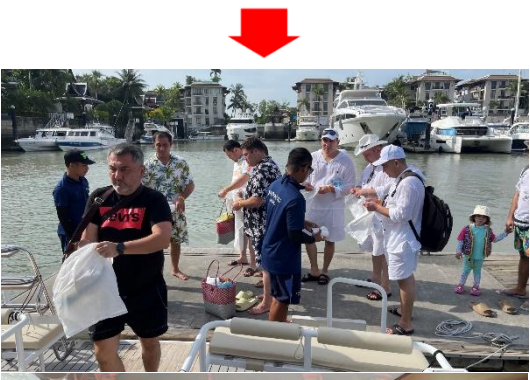


☆ビーチグッズの販売や貸し出し

▪マリンシューズやスマホケース、日焼け止め、水着などを販売しております。価格も優良販売！

▪ビーチタオルの貸し出しもあります。（有料）





☆ガイドさんの説明（英語）

▪今日のツアー行程をご説明！この日はカイ島を巡りピピ ドン島のモンキービーチを見学後、昼食
午後からピピ レイ島を巡り、マヤビーチは最後に立ち寄ります。

▪ケガなどの注意事項も説明（ウニ、クラゲなど）

▪妊婦さんや持病をもった方などの確認

▪シュノーケリングセットは船内で貸し出しをしております。現在足ヒレはレンタルを致しておりません。サンゴの保護で足ヒレは使用しておりません。

【ツアーのポイント②】

☆ガイドさんの後を追って乗船が大事！

▪ボート内の席を選ぶためにガイドさんのすぐ後についていくのがポイント！リストバンドの色で呼びます。

▪１日の席が決まるので、早めの乗船がおススメ！





☆ボートに乗船

▪サンダルを脱いで乗船です。ビニール袋に入れて乗船をして下さい。スタッフが袋をお渡ししてます。

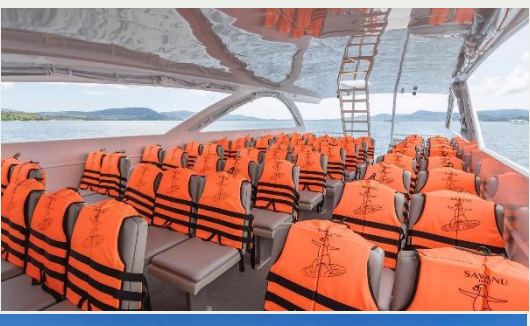
▪今日は中型ボートなので、横に右３席+左３席×６列と後ろにソファ席が御座います。２名様ご参加者は離れて座ることがあるので、最初の席取りが大事！

☆ボート内の席（自由席）

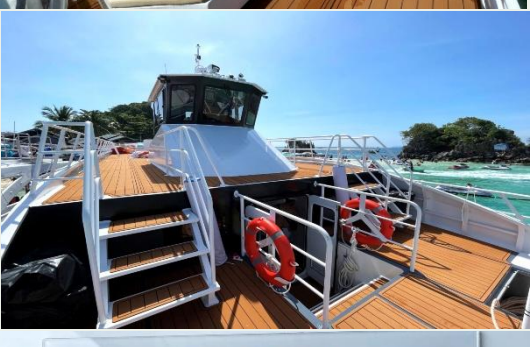
▪進行方向に向いて座るので、足元も余裕があり、前座席につかまる事が出来ます。席から離れる場合は荷物などを置いて場所取りを行って離れることが大事！

▪揺れを気にされる場合は中央の後ろの席がおススメ、景色など楽しみたいなら左右のお席がおススメ！早く乗船した順となりますので、早めに並ぶことが重要！

▪荷物などは膝の上や足元にも置くことも出来ます。
▪人数確認、ライフジャケットを着て出航！









☆大型のリラックスクルーズボートの船内
▪その日の波の状況によって、ボートが変わることがあります。座席は同じになりますがデッキ部分が少し狭くなります。**写真上：別タイプのボート**
▪大型のリラックスクルーズボートは、上部デッキと前方デッキに広いデッキが備わってるのが特徴です。どこからでも映え写真が撮れ、自由度が広がります、
▪トイレも広く、天井が高いので着替えも余裕で着替えることができます。２部屋が備わっております。
▪ボート幅も広く、カタマラン方式の船となります。

☆大型クルーズボート座席
▪その日の参加人数によって、ボートが変わります。
▪大型ボートは、横に右２席+中央３席+左２席×9 列となっております。こちらも余裕の席となります。



☆ボートのトイレと飲み物
▪トイレは前方にあります。走行中は難しいので停泊してからご利用頂けます。ボート後方にはクーラーBOX、無料のお水やジュースなどがいつでも飲む事ができます。



☆ガイドさんかバンブー島の説明（英語）
▪約１時間の自由行動
▪バンブー島の注意事項を説明。国立公園のため、ビーチチェアーやパラソルが無いため、ビーチで寝転ぶか、後ろの茂みに行くか２通りあります。
▪シュノーケリングはボートを止めてる区域の左右がポイントとなります。
▪バンブー島のトイレは無料
▪**集合時間を紙に書いて、毎回提示してます。**





トイレありO

☆今日の最初のポイントのバンブー島
▪降りる際は集合時間をお知らせしますので確認を！バンブー島では 60 分位の自由時間。茂みにある売店で飲み物やお菓子など販売してますが、飲食後のゴミは指定の場所に！
▪ピピ諸島のバンブー島は国立公園の島となります。





☆バンブー島の東屋

▪茂みの奥には売店や東屋があります。プーケットから 1 時間弱の片道なので、一息入れるのも、シュノーケリングを楽しむのも良いかもしれません。

▪売店では必ず料金確認をして購入下さい。（タイバーツの現金のみ）



☆バンブー島から出発

▪集合時間になりましたらリストバンドの色で集合を呼びかけます。席に戻り人数確認後、出発！

▪集合時間には気をつけて、ボートが見える範囲にいるのが良いです。



☆ピピ ドン島のモンキービーチに立ち寄り

▪モンキービーチでお猿さんを見学、今日は満潮のためボートから見学になりました。

▪見学後はピピ ドン島のレストランまで 10 分程



☆ピピ ドン島での昼食

▪ガイドさんが集合時間を示したボードをもっております。時間と下船した場所やボートを覚えてください。**（重要）**

▪降りる際は集合時間をお知らせしますので確認を！約 60 分となります。

▪ガイドさんの後に付いて行き、レストランスタッフがお席に誘導です。荷物を置いて昼食を取りにいきます。





トイレあり○

☆ビーチフロントのレストラン

▪ビュッフェランチはとっても美味しい！マッサマンカレーやパッタイもトムヤムスープも味付けは辛くないです。

▪レストランのトイレは両脇に男女で分かれております。





トイレあり○

☆食後の余暇

▪トイレなどを済ませて！前のビーチでものんびりと過ごすこともできます。集合時間になったら下船したポイントに集合です。30 分ほどのんびりできました。

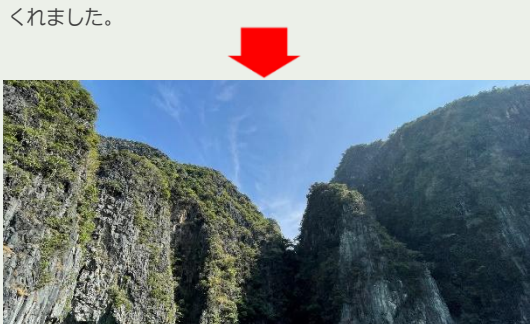
☆ピピ ドン島を出発！

▪集合時間は守って！他の参加者を待たせないように気を付けて！席について人数確認後、ピピ ドン島を離れます。



☆バイキング ケーブを船内から見学

▪船内からの見学になります。バイキングの壁画などが描かれた洞窟、今では海ツバメの巣の宝庫！ツバメの巣は高値で取引されてます。ガイドさんが洞窟内の壁画の写真を見せてくれました。





☆ピレ ラグーンの奥へと進みます

▪ラグーンの奥まで来たらボートを停泊します。
約 60 分位のリラックスタイムです。









ガイドさんから現地オプションの参加希望（英語）

▪ピピ レイ島のピレラグーンでのオプション紹介！
ピレ ラグーンについたらロングテールボートに乗り換えて小さなビーチに行くミニオプションツアーをご説明。他のお客様と一緒の乗合船がお一人 500 バーツ
専用船で行くと 2,000 バーツ/船（6 人位まで）
プライベート 2,000 バーツ/船、他のお客さんと乗合 500 バーツ/名（乗合）、所要時間は 30 分～40 分位
まだ知らないピピ島の景色が見れます。

☆ピレ ラグーンのミニオプションツアー

▪ピピ島に向かう途中で、ガイドさんが料金を紙に書いて希望をとってます。
手前の小さなビーチに行くミニツアーはココでロングテールボートに乗り換えて出発！記念撮影がロングテールボートで撮れ、小さな船しか立ち寄れないビーチでミニ観光が楽しめる

**▪ロングテールボートのオプショナルツアーに参加しない方はラグーンの奥で泳いだりリラックスを楽しみます。
クルーザーボートの 2 階デッキからは映え写真が撮れる！
ガイドさんもお手伝いしております。オプショナルツアーに参加しなくても楽しめるクルーザーボートです！**





☆ピレラグーンでのひとときが楽しい！

▪ボートから飛び込んだ海は首までくる深さなので飛び込みは注意が必要です。
▪ここでは現在、クリアカヌーやパドルボートは禁止となりました。
▪クルーザーボートでは、ボートの先端デッキに上って記念

写真が撮れるのも魅力！パノラマな記念撮影が楽しめる！





☆高いデッキからだとパノラマ写真が映える！

・楽しんだ後は人数確認後、出発！



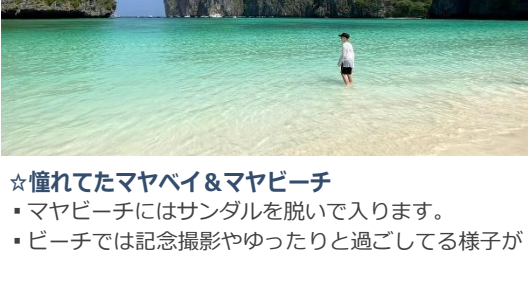




☆ローサマベイに移動

▪ ローサマベイからマヤビーチへ向かいます。

▪ **集合時間を紙に書いて、毎回提示してます。**



トイレあり〇

☆待ち合わせの場所確認とトイレ

▪ マヤビーチに行く途中に待ち合わせ場所（ミーティングポイント）をお知らせ致します。時間になったら戻って来て下さい。

▪ この日はトイレの近くに待ち合わせ場所を設定！

▪ **集合時間を紙に書いて、毎回提示してます。**

☆憧れてたマヤベイ＆マヤビーチ

▪ マヤビーチにはサンダルを脱いで入ります。

▪ ビーチでは記念撮影やゆったりと過ごしてる様子が

見れます。（遊泳禁止）海にはひざ下までで！
▪**集合時間前には待ち合わせ場所に戻りましょう！**





☆待ち合わせ場所に集合
▪待ち合わせ場所にてホテル名で確認を行い、人数確認後、浮き橋に戻ります。集合時間には注意を！
▪ガイドさんは宿泊先のホテル名でも確認をしてます。
▪ホテルに帰るバス番号をお知らせ致しております。



☆シュノーケリング ポイントに移動
▪外からマヤビーチを見ることができます。
▪シュノーケリングをしなくても景色を見ているだけでも気分は『ザ・ビーチ』です。ここでも映え写真が撮れるのがポイント！大型のクルーザーボートだと写真を撮ることが利点にもなります。









☆シュノーケリング＆リラックス
▪船内でシュノーケルングセットをお渡し致します。
▪ガイドさんからの説明（英語）マスクの紛失は 1000 バーツ、シュノーケルの紛失は 500 バーツ、破損は ok との事、マウス部分は新しいものを配ってくれます。
▪ここからの写真はピピ島の背景がひろがってます。







トイレあり◎

☆帰港
▪船内でガイドさんとスタッフへのチップを受け取りに回ってきますので 100 バーツ以上のチップがスマートです。

▪港でリストバンドを返却します。
▪アイスクリームを食べてから乗車です。

☆お帰りのミニバスに乗車！お疲れ様でした。
▪スタッフ＆ガイドさんがお帰りのミニバスの振り分けをご案内致しております。
▪18 時頃には港に到着、ホテルまでは 19 時過ぎ頃の到着になります。

（注意事項）
港に到着！港からホテルへお帰り
ボートから出るときは忘れ物を確認！
港にホテル名を記載した運転手がお待ちしております。
トイレに行きたい場合は運転手に一言「トイレット」と伝えしたほうが良いでしょう。
ホテルまでは 60 分～80 分以上かかる事が御座います。
夕方は渋滞するので、夜のショーのご予約は要確認です。

ホテルに到着！車内の忘れ物を確認！
スマホなど忘れると他のお客様が持って帰るので、出てくることは珍しいです。（ほとんどが見つかりません。

スーツケースおよびパックパックなどの中型以上の荷物は持ち込めません。

シュノーケリングの心得！

シュノーケル＆マスクはボート内で貸し出しをしております。まずは海に入ってマスク内のレンズを洗い、髪の毛を濡らして髪を上げてからマスクは装備、その際に髪の毛が 1 本でも入っていると、そこから水は入ってきます。マスクに水が入ったときは海に潜り、マスク上部を指で押さえ、鼻からマスクに空気を入れるとマスク下から水が排出されます。ライフジャケットを着ていれば、沈まないのでマスクを上げて水を出せば簡単です。ライフジャケットは、左右のロックをして、股の間にもベルトを通しロック！
忘れてしまうと泳ぐときに首までライフジャケットが上がり苦しくなることがあるので注意。

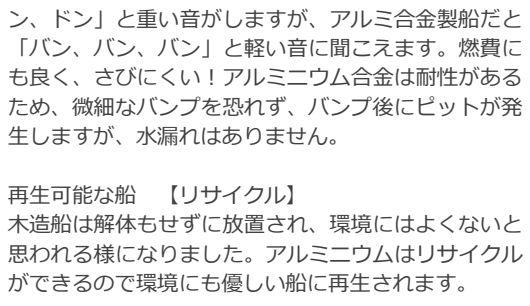


出発前のご用意！
ホテルからは軽装の下にあらかじめ水着を着て、着替えとビーチタオルをご用意。足元はサンダルでお出かけ。
ビーチタオルは、お部屋に備え付けやベルボーイカウンターにて無料貸し出しが御座います。※紛失は罰金 20 バーツや 100 バーツの小紙幣をお持ち下さい。

☆ピピ島マップ







☆カタマランボートの製造【環境に優しい】
プーケットでは約 95%以上の小型スピードボートは木造船舶となっておりますが、最近では新しくアルミ合金製船舶が製造されています。
50 名超える中型＆大型カタマランボートは、木造では製造できないこともあり、各国の技術者がプーケットで製造を始めました。
カタマラン船など複雑な造形船もアルミ合金製で、軽量なので高速で航行することができます。
同じスタイルの木造船スピードボートよりも 1/2 軽量であり、燃料消費量も 2 分の 1 に節約されます。

波を乗り越えるバウシング時に木造船だと「ドン、ドン、ドン」と重い音がしますが、アルミ合金製船だと「バン、バン、バン」と軽い音に聞こえます。燃費にも良く、さびにくい！アルミニウム合金は耐性があるため、微細なバンプを恐れず、バンプ後にピットが発生しますが、水漏れはありません。

再生可能な船　【リサイクル】
木造船は解体もせずに放置され、環境にはよくないと思われる様になりました。アルミニウムはリサイクルができるので環境にも優しい船に再生されます。